

# 集落支援員だより

## 第8号

発行者 東和地域集落支援員  
連絡先 66-2490  
発行日 令和元年5月24日



### 地域を思う

今回は、戸沢七区の関元弘さんにひと言いただきました。



戸沢七区 関元弘さん



日本は、世界に例をみない急速な高齢化と人口減少が進んでいることは周知のとおりで、当地に住んでいますとそのことを強く実感し、「日本創成会議」の、二〇四〇年までに全国の市町村のうち約半数が消滅する恐れがあるという刺激的な報告（増田レポート）も虚構ではないように思います。

人口減少は、集落・地域、農地、景観、生産力等々の維持が難しくなることを意味しており、ネガティブに受け取られています。果たしてそうでしょうか？増加する人口に応じて、山間部まで耕地を拓き、集落を形成してきた歴史に学ぶなら、人口減少→農地・生産量減少→集落

減少（又は消滅）となるのは当然の帰結であり自然なことだと考えられます。

問題は人口が減少することにあるのではなく、そのような流れに適応できない意識、社会の仕組みが問題なのではないでしょうか？人口が増加し、経済が成長していた昭和の仕組みや発想を、時代に即した在り方に切り替えることが必要だと思います。そもそも集落・地域のために住民がいるのではなく、住民のために集落・地域があるとの考えに立ち議論を深めていくべきですが、如何でしょうか？

ご縁あって当地に移住してきて、地域に密着して人が繋がって生きることの大切さ、都会にはない豊かな暮らしを実感して、このことを都市部の多くの方々に伝え、仲間を増やし、少しでも地域を賑やかにしていきたいと思っ様々活動しておりますが、その活動の一つに戸沢七区保全会の活動があります。戸沢七区保全会では、農地・景観の保全の他、地域資源を活用した地域活性化に向け、田舎体験ツアーの受け入れ、ヤギの試験飼養、田向の湯の再整備を進めているところです。

様々な地域の課題への特効薬、奇策はないですが、小さな取り組みを確実に進めて、魅力ある地域としたいと考えておりますので、皆様方

ご指導を引き続き宜しくお願います。

関さん、貴重なご意見をありがとうございました。

東和地域を活性化し、魅力ある地域となるよう、これからの活動に期待しております。

### 隠れ文化財

## 松尾芭蕉句碑②

第五号で紹介した「松尾芭蕉句碑」の第二弾です。

### 「父母のしきりに恋し

雉(キジ)の声」



▲ 松尾芭蕉句碑

木幡山隠津島神社参宿所付近に、松尾芭蕉の句碑が建っています。和歌山県高野山と木幡山隠津島神社は、開山当時から深いつながりがあり、今なお多くの参拝者が訪れています。

松尾芭蕉が母(梅)の死後、自宅で法要を済ませ、その後遺髪を託しに高野山へ行った際、寂寞(せきばく)の念に駆られ詠んだといわれているのが『父母のしきりに恋し雉(キジ)の声』です。

江戸時代後期、現在の東和地域には俳句をたしなむ人がたくさんいたそうです。高野山と隠津島神社とのつながりもあり、東和の俳人たちによって、隠津島神社参宿所にその碑が建てられたといわれています。



東和地域区長会長紹介

一年間の世話になります

今年度、東和地域の区長会長に就任された、針道九区区長の斎藤康正さんをご紹介します。



令和元年度 東和地域区長会長  
針道九区区長  
斎藤 康正さん

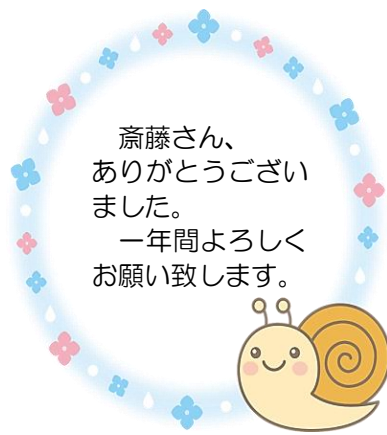
～斎藤さんより～

私は現在、建設・土木関係のレンタル業を営んでいます。

今から五十年前前は農業の拡大を目指していましたが、どんどん厳しくなっていく、仕方なく兼業農家となりました。ますます農業から離れてしまった今は、仕事の傍ら食べるだけの野菜の作付けをしています。

今は、妻と娘夫婦と次男の五人で生活しており、昨年の三月頃までは孫が同居していましたが、仕事の関係で埼玉の会社に勤務となり、寂しく過ごしています。針道九区は、他地区と比べ若い人たちが多く、部落行事のスポーツや諏訪神社例大祭あばれ山車、他にも中山間事業や

集落営農、そして昨年からは、大学生による地域創生推進事業で、東北文化学園大学による地域活性化活動に取り組んでいます。若い人たちが安心して働きやすく住みやすい環境づくりを目指して、地区一丸となつて頑張っているところです。



斎藤さん、  
ありがとうございました。  
一年間よろしく  
お願い致します。

芽吹きの季節です

篠ヶ作の桜

今の時期、里山には様々な花が咲き、人々の目を楽しませてくれます。中でも桜は、誰もが楽しみに待っている花でもあります。

東和地域でも至る所に桜の名木が点在しており、その地に足を運び、花見の宴を楽しんだりカメラに収めた方も多くと思います。

そんな中、戸沢十一区にあまり知られていない桜の木が立っています。それが「篠ヶ作の桜」です。集落のやや西側に

堂々と立っています。幹回り四m、枝振り十四m、高さは約十二mあり、樹齢は三百年といわれています。花は枝垂れて、傘を差したように綺麗に咲き、集落の方々に大事に守られているそうです。花はすでに散ってしまいましたが、芽吹きの季節である今、萌木色の桜も見映えますよ。興味のある方は、一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

今年の満開時の桜



集落支援員紹介

四月から活動しています

今年度も東和地域集落支援員は、昨年と同様の三人で活動しています。

○竹山 統樹とくに（針道・木幡担当）

針道・木幡地区を担当しています。

東和地域では、地域の担い手や後継者不足から、集落活動が困難な状況になりつつあります。このような現状を少しでも解決し、集落の維持・活性化を図りたいと思います。

○菅野 栄和すげの（太田・戸沢担当）

本年度より太田・戸沢地区の集落支援を担当しています。

集落活性化の為の話し合いに参加させていただきますのでよろしくお願致します。

○高橋 里美（事務及び事業補助）

集落での地域づくり事業の取り組み事例や、集落巡回で得た情報・東和地域の魅力などを発信し、活性化につなげていきたいと思っています。

集落支援員は、集落を巡回し住民と会話をし、集落の点検しながら住民同士の話し合いを推進しています。そして、住民と行政のパイプ役として集落の活性化の支援を行うのが役割です。

—お願い—

集落を巡回する際、戸別に訪問する場合がありますので、ご理解いただきますようお願いいたします。